

＜④若手経済団体及び若手経営者＞



インタビューテーマ

1 大船渡市の強み（自慢できる点、好きな点など）弱み（課題や不安な点など）について

【強み】

- ・海と山が非常に近く、沿岸部独特の美しい景色が気に入っている。お祭りをはじめ、地域が一体となって取り組む「人と人との強い繋がり」がある。
- ・海産物が非常に美味しい。全国を回る活動の中でも、大船渡のサンマやカキ、ホタテは非常に有名で、美味しいと多方面から評価される。
- ・海、山の近さ、人と人の繋がり、海産物などの豊富な地域の特徴をただの特徴で終わらせず、もっと発信を強化し、地域全体が盛り上がるイベントの仕掛けが必要。
- ・山や自然などの地域資源の豊かさ。お年寄りが培ってきた知識を伝承しながら、若い世代が地域活性化に向けて取り組む人の繋がりや温かさがあること。温泉、山、不動滝、海の恵み等、世界に発信できる素晴らしいものが豊富にある点も魅力。
- ・ちょうどいい知名度がある。県外で大船渡出身と言うと、東日本大震災、佐々木朗希選手、サンマラーメンなどの話題から、知名度の高さを実感できる点。
- ・まちの規模に比べて「夜、お酒を飲める飲食店が多くて楽しい」と内陸から訪れる人から喜ばれ、おもてなしの大きな強みになっている点。
- ・水産養殖の適性。地球温暖化で海水温が上昇し、西日本で生産が難しくなった魚種や、カキ・アワビ等が大船渡では今後高い競争力・チャンスを狙えると思う。また、郷土芸能やお祭りが非常に強力。全国に放映されて県外からも寄付や多くの客が集まるポテンシャルがある。
- ・圧倒的に海が綺麗。湘南等、関東の海と比べても随一で、子育ての大きな自信になる。また、女性や主婦でもスモールビジネスで起業しやすい土地であること。人の繋がりが温かく、起業を応援してくれる。娯楽や利便性がなくても、目の前で泳いだり魚釣りをしたりする生活で子供の精神的充足感が東京より高い点も魅力。

【弱み】

- ・沿岸部のため、どこに行くにも移動が遠い。車が無いとアクセスしづらいため、車を持たない観光客などが移動しやすいよう、公共交通機関の利便性を高めるべき。若い世代は地域独特の強い繋がりをあまり求めている傾向がある。IT化がまだ遅れていると思う。
- ・都会と比べて車移動が必須である点。また、小中高生などの若い世代が遊ぶ施設がない。学生時代に皆で集まってゲームをして懇親を深められる場所があればよいと思う。
- ・せっかく地元で大事に育ててきた子どもたちが、進学等を機に仙台や東京などの大都市へ流出して戻らず、それが周囲にとっても当たり前のようになってしまっている点。
- ・地域の課題に対して、解決しようという熱量が、近隣の市町村に比べて足りていないと感じる。

- ・IT化の遅れ。外から戻って美容室を予約しようとした際、アプリで予約できる店舗が1軒もなく、直接来店か電話予約だけだった。地元民は不便と感じていなくても、外の視点から見ると不便。
- ・交通インフラの不便さ。トラック協会に所属しているが、市内のインターチェンジの立地が悪く、信号や曲がる回数が多い。永浜・山口近辺へのアクセスが整備されれば企業誘致に有利に働くと思う。
- ・水産分野において漁協との関係ややり取りが主体的になるため、民間企業や行政がアグレッシブに新規事業を進めづらい点。また、少子高齢化に伴い、お祭りを支える寄付や運営主体のボランティアの絶対数が減り、縮小していく懸念がある。
- ・圧倒的に何もない不便さ、仕入れの非効率さ。若者や移住者が何か新しい挑戦をしようとした際、地元の大人が「こんなところでやっても仕方ない」「商売にならない」とネガティブな発言でモチベーションを下げ、足を引っ張る雰囲気がある。また、交通が不便で、公共交通機関でのアクセスの中で、観光客が時間を潰せるカフェ等の場所がない。

2 まちを良くするために自らが取り組みたいこと 行政に期待すること フリートーク

- ・新規拡充事業の「大船渡 AI 競争事業（AI イノベーション）」について、生成 AI をどのように使っているのか、今後の展開を知りたい。
- ・生成 AI は資料作成だけでなく「分析」や「アクションプランの作成」に活用するのが非常に便利。これらをさらに導入することで、市の取組が加速するのではないかと感じた。
- ・新規拡充事業の「海業（うみぎょう）推進事業」の進捗状況を伺いたい。
子ども向けの水遊びイベント「ウォーターSplash」を、今年は初めて「大船渡市場」で2日開催する。今後は大船渡魚市場を利用して、全国や世界に発信できるような大きい水産・観光イベントを行いたい。イベント等で漁港や市場を使用する際、もっと簡単に手続きができるよう、敷居を下げしてほしい。
- ・現在、「PLP（ポジティブラーニングプログラム）」という学習方法を推進している。これは企業・専門家と小中学校の橋渡しを青年会議所が行い、主体的な探究学習（フィールドワーク、ショップ経営体験、シャッター街での店舗運営、防災学習等）をサポートするもの。教員の人手不足や地域連携の難しさを解消するメリットもあり、岩手県内ではまだ実施例がないため、ぜひ大船渡で1校だけでもモデルケースとして導入、実施してほしい。